

バーチャル雪まつり2000 を終えて

代表 水越 洋

VSF最後の締めくくりとなる雪像制作も2月5日に無事完成することができました。今年は、熊本県岱明中、福井県上庄中、東京都赤羽西小、標茶町標茶中からそれぞれ3名(先生1名含む)を招待し、昨年以上の盛り上がりとともに制作を終えました。

今年の雪像のテーマは「2000年、過去から未来へ」でそれ



なんと東京から来てくれたご両親の中に左官屋さんが。こだわりの仕上げ。

をイメージしたデザインのモチーフが恐竜、卵、亀、矢印でした。制作するには少々難しいデザインかと思われましたが、VSFも今回で5回目とあって、雪像制作にもノウハウが出てきたせいか、5日間の制作期間でみごと完成へと持ち込むことができました。

今年の制作の様子は近々ホームページにアップしますので御期待ください。過去5年間のVSFホームページを振り返ると、毎年倍々の勢いでコンテンツの量が増えています。そのほとんどはコラボレーションのページでありまして、今年は前年と比べて4~



大変な人数になってきました。みんなで協力。

5倍以上の書き込み量になっています。これはインターネットが

年々学校に広がりつつあること、同時に子供達の情報発信能力が確実に高まってきていることを示すものではないかと思えます。

VSFの今年の新しい試みとして、制作当日に削った雪を道外の



交流会も大変なにぎわいになりました。

参加校に発送しました。北海道のさらさらの雪、そして実際に大通公園で雪像に使われている雪の感触を体験してもらいました。すこしでも雪まつりの雰囲気味わってもらえたようです。

来年もVSFは続きます。今度は新しい世紀の雪像をつくります。インターネットでいろいろな話し合いをして今までにない面白い雪像づくりにとりくみましょう。

今年もやったぞ！ デジタル雪まつり新聞

事務局 吉田

雪まつりの目玉プロジェクトとしてもう一つ忘れてはいけないのが、デジタル雪まつり新聞。学生たちで構成された編集部が発行するさっぽろ雪まつり特別編集のデジタルパブリッシング新聞で、3年目の取り組みになりました。

今年は、おなじみ道都短大の青山、神、岡、林くんらのメンバーをはじめとして、高校新聞研究会OBの成田、辻下兄弟のトリオ、通訳に北星短大を今年卒業予定の谷藤さんら精鋭を集めて、国際雪像コンクールに焦点を絞って3号を発行しました。

DTP高校新聞界の神様とあがめられてる(らしい)成田君らの協力で、取材・編集ともに例年にないスムーズさで進み、おじさんたちはずいぶんと楽をさせていただきました。見出しやレイアウトの構成の仕方はさすがなもんで、新聞の組み版もしたことないような我々は、驚きをもって見守るばかりです。

昨年に引き続き、富士ゼロックス北海道支店のご協力、世界最速のフルカラープリンタ=コピーDocuColor4040を使って約500枚を印刷、西6丁目と9丁目の臨時観光案内所で配布をしてもらったほか、さっぽろ雪まつりの公式ホームページなどからPDFで見ることが出来るようにしました。もちろん、取材をさせていただいた国際雪像コンクールの参加者の面々にも大好評、新聞も

引っ張りだこでした。

3年間の継続した取り組みが定着してきたのか、多方面で喜ばれる新聞となり、取材や配布にも協力が得られるようになってき



ちやっかり雪の女王と記念写真。そういう風に取材権を乱用してはいかん

ました。お世話になりました皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

現在も PDF が下記の URL からご覧になれます。

<http://www.aurora-net.or.jp/snowfes/2000/pdf/>

ACE 教育とコンピュータ利用研究会 MacEXPO ブース

武田

ACEは、2月16日から19日に行われたマックエキスポ東京2000に、今年も教育関係としては唯一の発表ブースを持ちました。

15日から上越支部の小川先生と学生君はiMacを、関東支部の西沢先生は、プロジェクタなどをはるばる運んで準備に入ってくれました。16日から17日までは、小川先生による上越で行われた研究会の報告、ThinkQuest(シンククエスト)についてシンククエスト@Japanから1999年度の報告と2000年度についての案内がありました。



ThinkQuestというのは、1996年に米国で始まった、教材Webページ制作のコンテストです。2~3名の中・高校生が一つのチームを組み、半年~1年かけてWeb作品(英語)を制作します。制作す

る作品は、世界中で教材として活用される内容であることが条件となります。応募部門は、「科学・数学」「芸術・文学」「社会科学」「スポーツ・保健」「学際(複数の学問分野にまたがるもの)」の5部門です。最優秀賞を受賞したチームの生徒には25,000ドル(約300万円)の奨学金が授与されます。

18日は、玉川学園からCHaT-Netセンターの取り組みの報告が溝口先生からありました。小学校から中学、高校までの教育活動と、父母と先生、子どもたちとの玉川学園の体系だった活動について報告がありました。

19日は朝から北海道支部からの発表です。進行は荒島先生が担当です。はじめに「バーチャル雪まつり」について水越先生から、その後、「デジタル雪まつり新聞」について青柳さんから、さらに徹夜で高橋先生が完成させた「バーチャル雪まつり2000ビデオ」を放映しました。最後に北海道発明工夫教育連盟99年度全道大会での研究授業の報告について高橋先生の発表がありました。

非営利団体ACEのブースは、何も売っていませんでしたが、この艶消しブースの魅力は大きく、アップルの三木さん、ヤノ電器のみなさん、マックファン編集長など多くの方が来場してくれました。

今回のマックエキスポは、小賀先生、水越先生一家、見澤先生、三河先生、高橋先生、荒島先生、青柳さん、武田の11人が参加しました。いや~皆さん、大変お疲れ様でした。

ブース発表その2

高橋 裕幸

MacExpoに行くのは去年に引き続き、2回目でした。ふだんWindowsしか使っていない私にとって、Macの祭典は、今一乗らない部分もあるのですが、それでも好きなビデオや音楽関係の情報などが得られるし、見るだけでも楽しいものです。

去年はただのお手伝いみたいなもので、お気楽なものでしたが、今年はそうはいきませんでした。ACEのブースで発表をしなければならなかったからです。

発表の内容は、去年の「発明工夫」の研究報告ということでした。そこで、活動計画案を印刷してもらい、配布していただきました。教育関係者以外は、なんのことかわからないいろいろなとみんなに聞いて欲しいことがあるんです。い部分も多いでしょうが、先生方もけっこう来場するということですから、多少の参考にはなるだろうと思いました。

ブースの大きさやプロジェクターのことなど、去年見ていただいたいはわかっていたので、準備は楽でした。パワーポイントのようなものを使っても、よく見えないだろうということがわかっていましたから。そこで、授業の様子の写真などを見てもらいながら



話をすることにしました。

私の出番は、19日午前の2回でした。武田先生と荒島先生がACE北海道の全体を流してください、その中で水越先生や青柳さんや私の発表が行われるという形でした。



水越先生にもブース発表をお願いしました。

特に緊張するということはありませんでしたが、ブースというところで話したことはなかったので、どこに向かって話せばいいかなど、戸惑いはありました。でも、結局自分のペースで話すしかないということで、ある意味で開き直って発表してきました。聞いている人はブースの人やACEの関係者がほとんどで、拍子抜けの部分もありましたが、不特定多数に向かって話すということは、まあこんなものでしょう。

あのような大きな場で発表できるということは、貴重なことなので、とてもいい経験をさせていただいたと思っています。

ACE 総会報告

2月19日(土)17:30より、ホテルグリーンタワー幕張「筑波西の間」を会場に2000年度総会が開催されました。会場には30名を超える参加者、富山では6名の会員がiVisitで参加しました。他に委任状が70名を超える数となり、会則第14条の規程に沿って総会が開催されました。司会は武田ACE北海道支部長が勤められました。

【議事次第】

1. 会長挨拶 渡辺隆会長



会長のご挨拶です。

2. 議長選出 慣例によって会長が議長として選出されました。

3. 99年度活動報告

POEM'99 in Tokyo 報告(西澤関東支部長)

北海道支部「地域と教育をめぐり、グリ2」(荒島北海道副支部長)

関西支部「ネット中心の活動への脱皮をめざして」(中島関西支部長)

北陸支部「喰って、食べて、飲んで語った1年」(小林北陸支部長)

九州支部「1999 支部活動の抜粋」(吉富九州支部長)

東北支部「現在のようす」(尾形東北支部長)

会報について(葉山本部事務局員)

4. 99年度収支報告

収入合計 10,366,034 円

支出合計 10,366,034 円

前年度繰越金にはJ-MACからの機材寄付金を含んでいる。99年度に障害児学校5校への寄贈を無事に終えた旨補足説明あり。各項目詳細については次回のACE NewsLetterで報告予定。

5. 99年度監査報告 檜皮関西支部代表幹事より監査報告があり、承認。



支部長語る。でも疲れてる模様。

6. 今後の活動案の提示

ネットワーク上のコラボレーションを中心としたプロジェクトを行い、地域活動と全国的なオフラインミーティングをしながらその成果を教育に反映する。

1. 地域とプロジェクト単位の活動へ移行する。

2. 会長、代表幹事(渉外担当)、監査(2名)を総会で選出し、幹事(運営委員)は会長が任命する。

3. 現行の支部組織を見直し、必要に応じた支部及び支部事務局等を設けていく。

4. 今後の活動はネットワーク中心で行うため会員が利用しやすいネットワークを構築する。

5. 2001年度以降、総会もネットワーク行えるような運慶形態をとる。

6. プロジェクト及び地域(エリア)の活動は3人を最低の構成メンバーとして、ネットワークでの呼びかけ、活動報告を行えるようにする。

7. 紙媒体における会報は次号で最終とし、それ以降はネットワークで情報を共有する。

これに伴い会則の変更が必要となる。今回の提案でネットワー

ク上での総会を妨げないものとするを確認し、具体的作業を進めていくことになる。会報やネット上で報告し提案していく。4月くらいに原案を提示し、1ヵ月程の討論の期間をもち、幹事(運営委員)会で再度整理し、投票などの方法で決定していきたい。



懇親会。みんなそろって。

7. 2000年度の予算案の提示

収入合計 3,771,379円

支出合計 3,771,379円

99年度はJ-MACからの寄付の分金額が大きくなっている。ネットワーク関連費はFCISへのグレードアップ料を含んでいる。POEM関連の費用は含んでいない。各項目詳細については次回のACE NewsLetterで報告予定。

8. 2000年度会長及び代表幹事、監査選出

幹事会ならびに委任状からの推薦として、次の2名が候補として選出され満場一致で決定した。

会長 渡辺隆氏(上越教育大学・現上越支部)

代表幹事 清水英典氏(玉川学園・現関東支部)

監査 鈴木光氏(玉川学園・現関東支部)

吉村匠氏(北海道新聞社・現北海道支部)



ちょっと見えづらいけどなんとこんなかいはいiVisit総会です。

続いて会長より幹事(運営委員)に以下の7名が任命された。

武田亘明(現北海道支部)

荒島晋(現北海道支部)

西澤廣人(現関東支部)

小川亮(現上越支部)

小林泰浩(現北陸支部)

中島康明(現関西支部)

吉富一樹(現九州支部)

編集後記

EXPO & 総会に行きたい気持ちを抑えて釧路で宮田社長たちとマルチメディアイベントをやってきました。いろいろな動きが徐々にコンバージェンスしていく課程を大切にしましょう。(吉田)

急な話ですが、3月1日から、道新メディックへ出向することになりました。とはいえ当分は事務局的活動を引き続き務めさせていただきます。今度の職場は北10条西4丁目の道新北ビル、初代事務局長ともどもお越しをお待ちしています。(青柳)



恒例のやぶそば。

VSF2000, デジタル雪まつり新聞, MWE, ACE総会も無事に終わり、いよいよ新生ACEが誕生することになります。北海道支部も体制を整え新たな一歩を踏み出すこととなります。いよいよ正念場の1年となります。皆さん、これからも手を取り合って頑張りましょう!(荒島)

春ですね・・・スミマセン、もう原稿がかけません。ごめん、、はるこ、ばれちゃった。ははは。(見澤)

ACEは新しくなります。Internet Collaborative Educationがメインテーマです。全国規模のコラボレーションのプロジェクトを中心に活動していきます。そう、バーチャル雪まつりプロジェクトやデジタルがこう新聞プロジェクトや環境プロジェクトなどなど。北海道支部についても新しい体制をつくっていきましょう。でも、これからも子どもたちの目の高さで、ネットワークを活用して世界の問題を身近に感じて、平等に話し合うことができる体験を皆で積んで行きましょう。子どもと地域といっしょにね。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

2000年2月28日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当：青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX 011-210-5532

<http://onko.ncf.or.jp/>